

福島再生加速化交付金(福島定住等緊急支援)
/福島定住等緊急支援交付金

定住緊急支援事業計画の実績に関する評価

令和2年3月
福島県 檜葉町

(様式1)

定住緊急支援事業計画に基づく事業等の評価一覧

令和2年3月時点

(単位:千円)

1)事業の実施概要

Table with 12 columns: No., 事業番号(注1), 事業名(注2), 地区名施設名, 基幹/効果促進, 事業実施主体, 全体事業費(注3), 全体事業期間(注4), 年度事業費(注5) (平成26-30年度), 評価実施時期(注6), その他.

2)事業計画に記載した地域の復興における支障の解決に係る目標(注7)

Table with 10 columns: 指標, 従前値(基準年度), 目標値(目標年度), 実施後の値(確認年度), 達成度, モニタリング方法, 効果発現要因(総合所見), 今後の対応, 備考(注8).

3)その他目標(2)に掲げたもの以外の目標(注7)

Table with 10 columns: 指標, 従前値(基準年度), 目標値(目標年度), 実施後の値(確認年度), 達成度, モニタリング方法, 効果発現要因(総合所見), 今後の対応, 備考(注8).

(注1)「事業番号」は、基幹事業については、「(制度要綱別表の番号)-(同一事業計画中の同種の事業の通し番号)」、効果促進事業については、「◆(最も関連する基幹事業の事業番号)-(最も関連する基幹事業ごとの通し番号)」となるよう記載する。

(注2)「事業名」は定住緊急支援事業計画に記載された事業名を記載する。

(注3)「全体事業費」は、「全体事業期間」を通じての全ての事業費と交付対象事業費をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。

(注4)「全体事業期間」は、事業着手年度から全ての事業内容が完了する年度までを記載する。

(注5)「年度事業費」は、事業着手から事業完了年度までの各年度の交付対象事業費と全ての事業費の実績額をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。

(注6)「評価実施時期」は、定住緊急支援事業計画に基づく事業等が完了した日の属する年度の翌年度の12月末日までの実施した時期を記載する。

(注7)2)には定住緊急支援計画に記載した内容を、3)には定住緊急支援計画に全く記載をしていないもの、今回の整備により期待される効果があれば記載する。

なお、A-1,B-1,2,C-1事業については、子どもたちが十分に運動する機会の確保の観点、C-2,C-3については子育て世帯の定住に資する観点から、維持管理や運営の視点、ソフト事業との相乗効果などの面も含め目標を記載する。

(注8)「備考」の欄には、当該目標の評価対象となる事業番号を記載する。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

令和2年3月時点

県名	福島県	交付期間	平成26年度～平成27年度	交付対象事業費	6,570千円
市町村名	楡葉町	実績評価実施時期	令和元年度	評価対象事業	A-1-1

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

○あおぞらこども園内にある遊具を更新することにより、放射性物質の影響への保護者の不安を払拭し、就学前児童の外遊びの機会を確保するとともに、子どもたちの肥満割合の減少を図る。また、のびのびと広い園庭で遊ぶ子どもたちの姿があること、帰還を検討している子育て世帯に安心感を与え、早期帰還を促進する。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

あおぞらこども園内にある既存の遊具(すべり台(富士山)1基、すべり台(ぞう)1基、すべり台(中庭)1基、木かん車(すべり台)1基、ちびっことりで(はしご、展望デッキ、すべり台)1基、はんと棒1基)を更新する。

(2) 事業の実施状況

平成27年4月に着工、同年6月に竣工し、供用を開始した。本事業により、遊具自体を更新することで放射性物質の影響への保護者の不安を払拭し、子ども達の外遊びの機会を確保している。子ども園庭でののびのび遊ぶ姿は、帰還を検討している子育て世帯に対して、大きな安心と希望を与えるものとなっている。

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

平成23年3月11日時点の住民登録者数は8,042人で全町避難から平成27年9月5日に避難指示が解除され、令和元年度9月末における町内居住人口は3,853人となっており、児童・生徒数、小売店、担い手等に影響を及ぼしている。肥満児については、平成26年度時点で12.5%だったが、30年度では9.2%と改善が図られている。これは、子ども達がのびのびと遊ぶことができる場を整備し、様々な運動の機会を確保したことが要因と思われる。

(4) その他

外部評価①(あおぞらこども園長)

こども園内に設置された遊具の更新を実施したことにより、まずは、子どもたちの体を動かして遊ぶことに対する興味が増え、屋外で有意義な時間を過ごすことができていると評価する。また、保護者の皆様に対しても、遊具を新しく更新したことにより、震災による影響での放射性物質への不安の払拭につながり、安心感をもってこども園にお預けいただいている状況である。今後も遊具の有意義な利用を促し、子どもたちの体力や運動能力の向上、運動をする機会の増加による、肥満の抑制など、様々な面で活用できることを期待する。

外部評価②(楡葉町振興公社理事長)

こども園の遊具の更新及び楡葉町での再開を機に、地域の子どもの人数が増加している傾向がみられる。これは、町で生活を再建した子育て世帯の増加が要因であると考えられ、こども園の魅力が十分に子育て世帯に届いているのだと感じている。また、この子育て世帯が地域の公園の活用していくことで、地域の活性化及び地域振興に寄与するものとする。

外部評価③(楡葉町教育長)

こども園の遊具については除染を行っており、線量は基準値を下回っているが、保護者との懇談会等において、放射線に対する全般的な不安及び長時間屋外に放置された既存の遊具についての放射性物質の影響への不安を感じる声が多く寄せられていた。そのため、こども園再開後に、遊具を使つての屋外での運動機会の確保が難しい状況であった。教育の基礎を培うこととなる就学前の子ども達が利用する遊具を、本事業を通じ新たに更新し活用させることにより保護者の不安払拭などの効果は計り知れない。

外部評価④(楡葉スポーツ協会事務局長)

本事業の肥満度の調査結果を見ると、十分な成果が得られており、新たな遊具を十分に活用していることがわかる。震災後の県内において、特に双葉郡の子どもの運動不足が懸念されている状況の中、魅力ある遊具の設置により子ども達が興味を持ち、今後の運動不足解消、さらには、運動能力の向上にもつなげていくと期待している。

事業計画推進による効果・変化(注2)

放射性物質の影響への保護者の不安の払拭や、子ども達の外遊びの機会を確保し、体力の向上を図れた。また、のびのびと広い園庭で遊ぶ子どもたちの姿は、帰還を検討している子育て世帯に対しても大きな安心を与えるものであり、生活環境の整備と合わせ、町民の早期帰還の促進につながっている。また、園児の身体測定結果により、平成22年度と平成26年度、平成30年度の肥満度の割合を比較したところ、下記に記載のとおり平成26年度と平成30年度の肥満度の割合を比べると、肥満児割合は減少し、事業による効果が十分に得られたことが伺える。◆平成22年度肥満児 6.6%(166人中11人)◆平成26年度肥満児 12.5%(24人中3人)◆平成30年度肥満児 9.2%(65人中6人)

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

放射性物質の影響による不安の払拭に向けてさらなる安心をもたらすため、保護者のみならず、町民全体に対し周知をしていく。外遊びの機会をさらに増やすために遊具を用いた体作りや、さらなる体力の向上を目指し、遊びの中で運動能力の向上を目指していく。肥満度の割合の調査も継続的に実施し、園児の身体測定結果を集計し肥満度の増加につながらないようにこども園での外遊びの充実を進めていく。

(注1) 様式1の(2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の(2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

令和2年3月時点

県名	福島県	交付期間	平成27年度	交付対象事業費	94,500千円
市町村名	楡葉町	実績評価実施時期	令和元年度	評価対象事業	A-1-2

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

住民にとってなじみ深い天神岬スポーツ公園の遊具を更新することにより、放射性物質の影響への保護者の不安を払拭し、子育て世代が安心して子どもを遊ばせる機会を確保し、体力の向上を図る。また、帰還を当面見合わせる子育て世代に大きな安心感を与えることで、生活環境の整備と合わせ、子育て世代を中心に町民の早期帰還を促進する。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

天神岬スポーツ公園内にある既存の遊具(トラックライド1基、4連ブランコ(安全柵含む)1基、ザイルクライミング1基、3連鉄棒1基、複合遊具(大)1基、ステンレススライダー1基、波形スライダー1基、波形ラダー1基、複合遊具(小)1基、ジャングルジム1基、スカイロープ1基、複合遊具(大)、ステンレススライダー、波形スライダー)を撤去して、同様の機能を有する遊具に更新する。

(2) 事業の実施状況

平成27年10月に着工、同年2月に竣工し、供用開始となった。同施設の遊具について、常時利用できる状況を維持することによって子ども達が外で遊ぶことができる機会を確保している。

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

平成23年3月11日時点の住民登録者数は8,042人で全町避難から平成27年9月5日に避難指示が解除され、令和元年度9月末における町内居住人口は3,853人となっており、児童・生徒数、小売店、担い手等に影響を及ぼしている。小学生の体力テスト総合判定A・Bの割合については、平成26年度時点で31%が令和元年度では50%、また、小学生の肥満傾向児童割合については、平成26年度時点では31.9%から令和元年度に15.0%と改善が図られている。これは、住民にとってなじみ深い天神岬スポーツ公園をはじめとした小学生が運動できる場所を整備し、大型遊具など、子どもの興味を引くことができる遊具があることで、屋外で遊ぶ意欲をかきたてたことが一因としてあげられる。

(4) その他

外部評価①(あおぞらこども園長)

帰町している園児の中には、週末になれば天神岬スポーツ公園に足を運んでいる園児も多く、船の大型遊具、ブランコ、鉄棒等で楽しんでいる。今回設置された遊具は園児達が楽しめる物が多く、避難生活や屋外での遊びの機会が減少していた園児にとって、運動不足解消の一助になっている。

外部評価②(楡葉町振興公社理事)

遊具が設置されたことにより、子育て世帯が多く来場している。帰還する住民や新たな住民も増加し、多くの子ども達で賑わっている。大声をだして活発に運動している子ども姿が見られるようになり、今後も子ども達が安心してのびのびと当該遊具を利用できるよう、維持していくことが重要である。

外部評価③(楡葉町教育長)

子ども達が安全にかつ閉そく感を感じず運動できる公園に遊具を設置したことにより、帰還を見合わせる子育て世帯に対し大きな安心感を与え、早期帰還の促進につながった。また、屋外遊具により、子どもの運動機会が大幅に増えた結果、小中学生の肥満傾向割合の数値の改善が図られているとともに、身体測定や体力テストにおいても全体的に体力向上となっている。

外部評価④(楡葉スポーツ協会事務局長)

住民にとってなじみ深い天神岬スポーツ公園の遊具を更新したことにより、保護者が安心して子どもを運動させられる場所を確保し、体力の向上が図れている。週末ともなれば多くの園児や小中学生が集まり、遊具でいろいろな遊び方をする姿が見られるようになった。体を動かす子どもが大変多くなり、運動不足の改善がされている。

事業計画推進による効果・変化(注2)

遊具の更新により子ども達の外遊びの場が確保され運動不足の解消が図られたことにより、以下のとおり改善効果があった。

- ・園児の肥満傾向割合について、平成26年度と平成30年度を比較すると数値が12.5%から9.2%へ改善が図られ、小中学生の肥満傾向割合についても数値の改善が図られている。
- ・身体測定や体力テストにおいて全体的に体力向上となっている。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

- ・遊具更新に関する情報等について町ホームページや広報紙等で広く広報することにより施設の利用促進を図る。
- ・公園の広場空間と一体となった遊具の利用が促進されるように、団体での課外活動等を多く取り入れる。

(注1) 様式1の(2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の(2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

令和2年3月時点

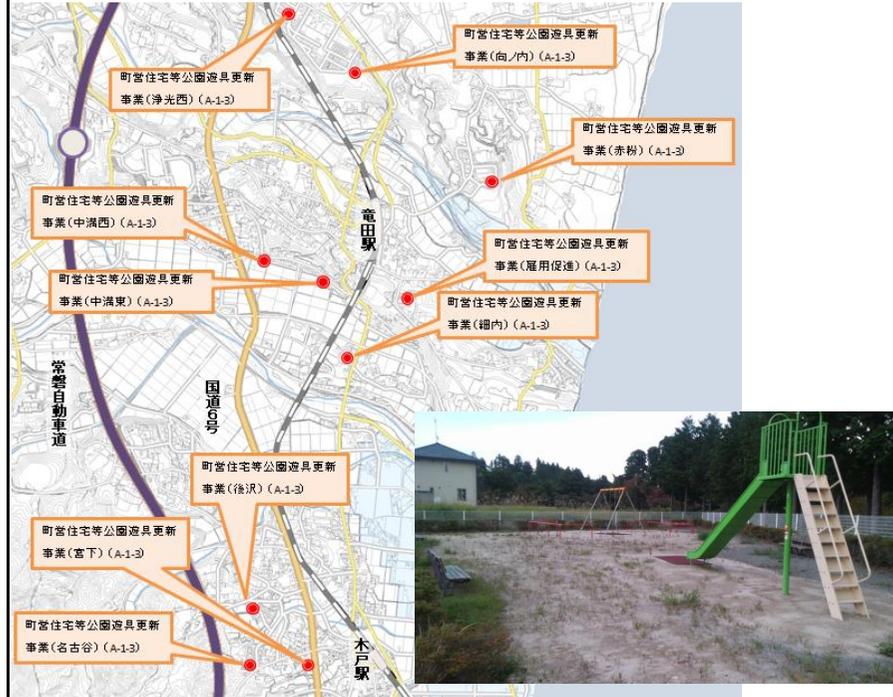
県名	福島県	交付期間	平成28年度	交付対象事業費	32,408千円
市町村名	楡葉町	実績評価実施時期	令和元年度	評価対象事業	A-1-3

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

原発事故以来、長期の避難指示によって、適正に公園を管理できていない状況が続いていたことから、遊具に痛みが生じており、保護者が身近な公園で、安心して子ども達を遊ばせることができる環境が失われている。そのため、町内に広範に配置されている町営住宅等の公園遊具の更新を図ることで、安心して、より身近に、子ども達を遊ばせることができる環境を整備することで、運動能力の向上を図り、子育て世代の早期帰還を促進する。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

町営住宅等に隣接する公園の既存の遊具(ブランコ10基、すべり台6基、シーソー2基、鉄棒2基、雲梯1基、ジャングルジム1基、複合遊具1基、砂場3基)を撤去して、同様の機能を有する遊具に更新する。

(2) 事業の実施状況

平成29年1月に着工、同年3月に竣工し、供用開始となった。同事業により、入居者の子ども達が、常時安心して遊ぶことができる環境が整備され、運動能力の向上及び、子育て世帯の帰還の促進につながっている。

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

平成23年3月11日時点の住民登録者数は8,042人で全町避難から平成27年9月5日に避難指示が解除され、令和元年度9月末における町内居住人口は3,853人となっており、児童・生徒数、小売店、担い手等に影響を及ぼしている。小学生の体力テスト総合判定A・Bの割合については、平成26年度時点で31%が令和元年度では50%、また、小学生の肥満傾向児童割合については、平成26年度時点では31.9%から令和元年度に15.0%と改善が図られている。これは、住居に近く身近に運動することができる遊具を更新し、普段から外で遊ぶことを習慣とすることができたことが一因としてあげられる。

(4) その他

外部評価①(あおぞら子ども園長)

団地内には園児もおり、園内の活動の他、家庭教育でも運動の環境が整い、子どもが外で遊ぶことができる機会の確保につながっている。引き続き子育て世帯の帰還や新たな住民の定住促進を行うことにより、園児が増え、同遊具等が活用されることで、活気ある町に繋がればと思っている。

外部評価②(楡葉町振興公社理事長)

町内に住んでいる子ども達は特定の場所で遊ぶとは限らず、団地内に住んでいる園児にとって、町内にある天神岬スポーツ公園のほかにも、身近な場所に運動環境が整うのは、運動機会の確保の観点からも望ましいことである。今後も、帰還する住民や新たな住民の増加していくためには、身近な運動施設を含めた、魅力的な環境としていくことが重要である。

外部評価③(楡葉町教育長)

教育カリキュラムの中でも、幼児教育や学校教育で運動機会は設けているが、そのほかにも家庭内の教育が重要である。町の教育以外で運動の環境が整っていることで、より丈夫で活発な子に育つと考えている。今後も教育に力を入れていくことに加え、子育て世帯にとって魅力ある環境によって、住民帰還及び新たな住民獲得に寄与すると考えている。

外部評価④(楡葉スポーツ協会事務局長)

町内にある他の運動施設に加え、身近に運動できる環境があることは、子どもが自発的に運動をするためにも重要であり、同環境が整備されたことで、保護者の目の届く範囲でも運動できる機会が確保され、町の園児及び子ども達の肥満解消や運動能力の向上につながっている。

事業計画推進による効果・変化(注2)

- ・子ども園や学校以外でも運動ができる環境が整い、運動の機会が増え、肥満傾向児童対策や運動能力向上が見られる。
- ・交流人口の増加が確認され、町観光部門への波及効果が見られる。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

- ・運動能力の向上はみられるが、震災前と比較すると利用者はまだ少なく感じているため、維持メンテナンスの向上や魅力ある遊具設置等、利用者の増加の方法を模索する。
- ・草などにより利用意欲が欠如しないように、周辺環境の維持管理をしっかり行う。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

令和2年3月時点

県名	福島県	交付期間	平成28～30年度	交付対象事業費	3,437,092
市町村名	楡葉町	実績評価実施時期	令和元年度	評価対象事業	C-1-1

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

震災及び原発事故を起因とする日常的な運動不足により、震災以前に比べ肥満児童の割合が高くなっている。そのため、学校再開と合わせた子どもの帰還を促進する上で、通年利用が可能な全天候型の運動施設である体育館・屋内プールを整備し、子どもが安全かつ閉塞感を感じずに運動できる場所を提供することにより、帰還を見合わせる子育て世代に対し大きな安心感を与え、町民の早期帰還の促進を図る。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

野球場・補助競技場・陸上競技場・テニスコートと一体となった体育促進施設である(仮称)楡葉町総合運動公園において、子どもの肥満防止対策や体力向上、さらに健康増進や子育て世帯の定住化に資する屋内体育施設の整備を行う。

(2) 事業の実施状況

平成29年12月日着工、平成31年3月に竣工し、同年4月に供用開始となった。同施設により、子ども達が屋内でのびのびと運動できる機会を確保できている。

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

平成23年3月11日時点の住民登録者数は8,042人で全町避難から平成27年9月5日に避難指示が解除され、令和元年度9月末における町内居住人口は3,853人となっており、児童・生徒数、小売店、担い手等に影響を及ぼしている。小学生の体力テスト総合判定A・Bの割合については、平成26年度時点で31%が令和元年度では50%、また、小学生の肥満傾向児童割合については、平成26年度時点では31.9%から令和元年度に15.0%と改善が図られている。これは、(仮称)楡葉町総合運動公園に屋内体育施設を整備したことにより、屋内でも子どもたちがのびのびと運動できる場所ができたことや、各種スポーツイベントを開催することで、子ども達の活動を活性化させていることが一因としてあげられる。

(4) その他

外部評価①(あおぞらこども園長)

屋内体育施設は、こども園の授業で利用することもあり、いわき市内の幼稚園との交流事業ではアリーナで目一杯体を動かし、園児のみならず大人も笑顔になっている。また、当施設内のキッズスペースにて遊具を利用して体を動かしたり、スイミングスクールへ参加する園児も増えつつあり、町内での運動する環境が増えていることで、子育て世代の定住化にもつながっている。

外部評価②(楡葉町振興公社理事長)

屋内体育施設の整備により、子ども達が屋内でのびのびと運動を行う機会を確保できている。町内の子ども達にとって重要な施設となっている。また、合宿や大会誘致により、町全体の復興にも大きく影響しており、合宿において町内宿泊施設を利用していたり、SNS等でも情報発信がされることで、町のPRにもつながっている。さらに、総合グラウンド内の球場等の施設も知っていただくことにより、周辺施設の利用による相乗効果も見込まれる。

外部評価③(楡葉町教育長)

屋内体育施設は、学校の体育授業のほか、スポーツ少年団やスイミングスクールでも利用する機会が多く、町の教育においても非常に重要な施設となっている。同施設を含めた運動機会の確保により、震災後問題となっていた、肥満傾向児童の数も減少してきており、児童の運動能力の向上にも大きく貢献している。

外部評価④(楡葉スポーツ協会事務局長)

協会の事業において運動教室やスポーツ大会などで施設を利用する機会も多く、スポーツ少年団ではバスケットボールなどで多くの参加者が見られる。子ども達が学校の授業以外でも運動ができる環境が整備されたことにより、必然的に運動の機会が確保され、運動能力向上につながっているとともに、町から優れた選手を輩出できると考えている。

事業計画推進による効果・変化(注2)

- ・屋内体育施設の運営開始により、こども園や学校以外でも運動ができる環境が整い、運動の機会が増え、肥満傾向児童対策や運動能力向上が見られる
- ・交流人口の増加が確認され、町観光部門への波及効果が見られる。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

- ・屋内体育施設の利用促進のために、スイミングスクールのさらなる充実などを進める。
- ・肥満傾向児童対策を今後も継続するためにも、保健師、栄養士を含めた食生活指導の推進も図っていく。

(注1) 様式1の(2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の(2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。